

地域計画

市町村名 (市町村コード)	松本市 (202029)
地域名 (地域内農業集落名)	島立地区 (荒井、堀米、大庭、小柴、町区、永田、中村、三の宮、北栗、南栗)
協議の結果を取りまとめた日	令和7年3月12日

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 農業上の利用が行われる農用地等の区域

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	289 ha
農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	278 ha

(2) 地域農業の現状及び課題

・農業者の高齢化や後継者不足に対し、大規模農家及び集落営農が農地を集積し、農地や地域農業を維持している。今後、大規模農家や集落営農の維持、後継者の育成、法人化などが課題となっている。

・担い手の中には、肥培管理や畦畔の維持管理(草刈)を行わない者があり、農地の出し手や周辺農家からの苦情がある。

・規模拡大意向のある農家には、農地の貸し借りに係る地区のルールを説明し、理解を求めている。

・島立地区営農組合「豊稔の里」が転作及び農地の利用調整に取り組み、担い手農家や農業生産法人、農作業受託組合が農地集積や作業受託を行っている。また、農作業ヘルパー組合が耕作者の依頼に基づき草刈り等の支援を行っている。

(3) 地域における農業の将来の在り方

主要作物① 水稻を中心とした土地利用型農業を維持しつつ、作業の効率化に資するスマート農業を積極的に導入して集約による団地化(分散錯圃の解消による効率的な耕作)を進める。

主要作物② キュウリやトマトを中心とした果菜類の施設栽培を推進して更なる産地化・ブランド化を図り、高収益で安定した経営を継続できるよう研究を継続する。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集団化の取組
担い手を中心に、農地バンクを通じて集積・集約化を進める。農地貸付の意向について要望なき場合は、地区内の担い手耕作者への集積を優先的に検討する。その際、地域内の賃料の平準化について理解を求め、農地の有効利用と流動化・集約に努める。
(2) 農地中間管理機構の活用方法
農業委員、農地利用最適化推進委員、JAを中心に、地域全体の農地バンクへの貸し付け状況や所有者の貸付意向を踏まえつつ調整を行う。
(3) 基盤整備事業への取組
農地、用排水施設及び農道・ため池等の整備による安定的な生産及び自然災害等の被害防止のための事業に取り組む。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組
・市町村及びJAと連携して、新規就農者の確保及び兼業農家を含む多様な経営体を確保・育成に取り組む。 ・農業を通じた定住施策として、空き家を積極的に活用し、地域全体が共通認識のもと新規就農者及び後継者等の確保を図る。 ・施設野菜において、先進農家による新規就農者の育成指導を行う。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業体等への農作業委託の取組
作業の効率化が期待できる業務については、地区内の団体や業者を中心に委託を進める。(豊稔の郷、おひさまファーム等)

以下任意記載事項									
☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☒ ④畑地化・輸出	☒ ⑤果樹等					
☒ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☒ ⑧農業用施設	☒ ⑨耕畜連携等	☒ ⑩その他					
【選択した上記の取組内容】									
①有害鳥獣による被害防止として、引続き進入防止柵や捕獲体制の強化に取り組む。									
②有機農業を推進する。									
③作業効率化に関する情報・技術を域内で共有し、地域の発展と地域ブランドの醸成に取り組む。									
⑩JA松本ハイランド管内のライスセンターの再編集約や設備の更新を進める。									
⑩農地中間管理機構を通じた貸借における賃借料は原則として金納だが、農地所有者の事情等により、地域の農地利用調整の合意形成において物納が必要とされる場合、物納(米に限る)の取扱いができるものとする。									